

九州大学病院ボランティアのご案内

九州大学病院ではいくつものボランティア団体が活躍しています。今回は、小児医療センターで活動する5つの団体をご紹介します。

小児医療センターボランティア ゆめりんご

●活動内容
小児病棟の患者さんに付き添うご家族に、手作りのお菓子や飲み物を提供して、ひと息できる「カフェ」を開いています。ほかに7月は夏まつり、12月にクリスマス会を開き、入院中の患者さんやご家族と楽しい時を過ごしています。

●活動日時・場所
毎月第2水曜日 14:00-16:00
北棟6階 デイルーム



元気アートプロジェクト

●活動内容
プロのデザイナーや書道家、カメラマンが子どもたちに寄り添い、うちわ・ポストカードづくりや、書初めなどを教えたり、春の遠足・秋の運動会のグッズの制作やサポートを行っています。

●活動日時・場所
不定期：年6回程度
北棟6階小児医療センター プレイルーム



●ボランティア活動に関するお問い合わせ
患者サービス課医事係 TEL: 092-642-5981 e-mail: byniji@jimu.kyushu-u.ac.jp

病院にお越しの際は保険証をお忘れなく!

※保険証の提示がない場合には、保険での取扱いができません。



九州大学病院（病院キャンパス）は敷地内全面禁煙です。

■病院の理念

患者さんに満足され、医療人も満足する医療の提供ができる病院を目指します。

■基本方針【理念に基づく実行目標として、下記の5つを掲げています】

- ①地域医療との連携及び地域医療への貢献の推進
- ②プライマリ・ケア診療の充実
- ③全人的医療が可能な医療人の養成
- ④専門医療の高度化を目指した医学研究の推進
- ⑤国際化の推進

九大病院だより

九州大学病院 広報委員会発行

■腸管免疫を利用したスギ花粉症に対する新しい免疫療法の開発（経口免疫療法）

■スギ花粉症における免疫療法のこれまで

国民の30パーセント以上が罹患しているといわれるスギ花粉症。いまや国民病とも一部と呼ばれていますが、これまで、短期間でスギ花粉に対して症状を起こさなくなるような体質改善治療（免疫療法）はありませんでした。

一般に、近年、臨床研究で新たに注目されている免疫療法は、花粉症の症状が軽い患者さんから重篤な方までが対象になります。薬物治療との違いは、継続して治療を続けることで花粉に対するアレルギー反応が次第に軽減し、症状が全般的に軽くなり、また免疫治療をやめた後も治療効果の持続が期待できることです。

■カプセルを使う経口免疫療法とは

現在、保険で認められている免疫療法には皮下免疫療法、舌下免疫療法があります。約7割の患者さんに効果が期待できると言われていますが、これまでの免疫治療は薬物治療と比較してすぐに効果は期待できず、また3年から5年の間継続する必要があることが問題点でした。そこで、九州大学病院ではカプセルを飲んで治す腸管免疫を利用した利便性の良い、短期間で効果が期待できる新しい治療法（経口免疫療法）を開発し、臨床試験を行ってきました。

カプセルの中には、スギ抗原と多糖体の一種であるガラクトマンナンとの複合体が含まれており、これを花粉が飛散する2週間前から花粉のもっとも飛散する約2か月間、毎日服用する方法です。

■九州大学病院における経口免疫療法の現況について

耳鼻咽喉・頭頸部外科では、2010年からこの新しい免疫療法の研究と治験を行ってきました。その結果、安全性も確認され、鼻の症状や目の症状が軽減するだけでなく、治療のための薬物を減らす効果が認められました（図1）。

また最近のランダム化比較試験では、標準的治療に比べて約6割、抗アレルギー薬を減らす効果が認められました（図2）。

以上の結果から、スギ抗原-ガラクトマンナン複合体を用いた腸管免疫を利用した免疫療法は、従来の免疫療法では実現

できなかった短期間（約2か月間）で治療効果が期待できる、安全で利便性のよい新しい免疫療法となる可能性が示されました。

内服量、投与期間など、まだ治療薬として市販されるには改善すべき点がありますが、実用化に向けて今後も研究を継続し、花粉症に悩む方の一助になればと思います。

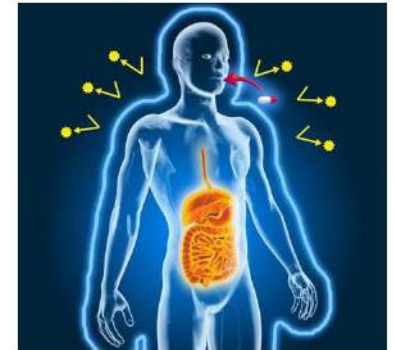


図1 新しい免疫療法の特徴

1. 季節限定、短期間
2. 簡便、低侵襲
3. 抗アレルギー薬を減らす効果
4. 重篤な副作用なし

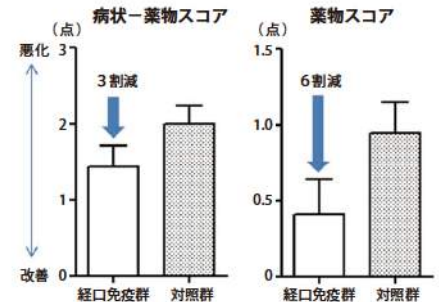


図2 短期間（約2か月間）の免疫療法でスギ花粉飛散期中の症状-薬物スコアと特に薬物スコアの改善が認められました

■耳鼻咽喉・頭頸部外科 TEL:092-642-5668

*臨床研究は、和興フィルタテクノロジー株式会社の協力のもと、行われました。

**現在、新規の臨床研究参加者の募集は行っていません。

▶▶▶ 診療科のご案内 ①

呼吸器外科(1)

呼吸器外科(1)はおもに胸部、肺、縦隔の疾患に対する外科治療を担当しています。おもな疾患は肺がん、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍(胸腺腫、神経原性腫瘍)、胸壁腫瘍などの腫瘍性疾患、気胸などの良性疾患です。

肺がんに対する治療は従来、肋骨を切除する開胸手術主体の手術が行われてきましたが、現在は進行症例でなければ、胸腔鏡(完全モニター視)主体の手術に変わっています。当科でも安全性、治療効果が期待できるほとんどの症例で、痛みの軽減や整容性(見た目や治り具合)も考慮した胸腔鏡手術を行っています。

また、縦隔腫瘍の一つである胸腺腫、とくに重症筋無力症を合併した胸腺腫の全摘術に対しては、「胸骨正中切開」による大きな傷で手術が行われることが多いのですが、当科では以前より鏡視下手術を採用し、「みぞおち」(剣状突起下)の小さな傷だけで、胸骨正中切開と同等の治療効果を得ています。

進行症例、再発症例に対しては最適な治療法が選択できるように、呼吸器内科、放射線科と合同カンファレンスを行い、患者さんにとって最適な治療を検討しています。当科では患者さんにやさしい医療を目指して、日々の診療を行っています。

呼吸器外科(1) : <http://www.hosp.kyushu-u.ac.jp/shiryō/geka/01/3.html>



開胸手術(肺がん) 胸腔鏡下手術(肺がん)
胸骨正中切開(縦隔腫瘍など) 鏡視下手術(胸腺腫)

▶▶▶ 診療科のご案内 ②

歯科麻酔科

歯科麻酔科は口腔外科手術における周術期の麻酔管理や全身管理を担当しています。このほか小児歯科・スペシャルニーズ歯科と協力して、目が覚めている状態では歯科治療が難しい障がい者の患者さんや、小さな子どもの全身麻酔管理を実施したり、歯科治療に不安の強い患者さんやインプラント治療を受けられる患者さんの鎮静なども行っています。

高齢者歯科・全身管理歯科と協力して、高齢でハイリスクの患者さんの麻酔管理も行っています。胸部に貼るだけで心機能や循環動態を評価できる器具などを使って、心臓に異常のある患者さんの歯科治療時の麻酔管理なども行っています。

治療中の歯科疾患以外には、とくに健康上の問題が少ない患者さんの歯科治療は、北棟5階の歯科麻酔科外来で実施しています(写真)。口腔外科の手術を行う患者さんや、呼吸循環に問題がある患者さんは南棟3階の手術室で対応しています。インプラント関係の麻酔管理は外来診療棟4階の再生歯科・インプラントセンターの処置室で実施しています。

手術野となる口腔は呼吸の通り道でもあり、気道管理の困難な症例が多数ありますが、気管支鏡をはじめさまざまな挿管補助器具を用いて、安全な気道管理に努めています。

歯科麻酔科 : <http://www.hosp.kyushu-u.ac.jp/shiryō/dent/09/index.html>



小児歯科の治療を、全身麻酔管理でサポートする歯科麻酔科医(右端)

マスクをご利用ください

— 院内設置の自動販売機などのご案内

風邪、花粉の飛来などに備えて、マスクを使用することが多い季節です。本院では下記の場所にマスクの自動販売機を設置していますので、ご利用ください。また、併せて院内に設置している自動販売機や精算機もご案内いたします。

- ・**マスク自動販売機** : 外来診療棟1階正面玄関ポーチ風除室、南棟1階時間外受付横、北棟1階出入口
- ・**外来診療棟1階のコンビニ内でも販売中。**
- ・**TVカード精算機** : 外来診療棟1階初診受付奥、南棟1階時間外受付横
- ・**本院の病棟(南棟・北棟)のみで利用できる、プリペイドカード精算機です。**プリペイドカードは、北棟3階デイルーム、南棟4-11階の各階ラウンジの専用自動販売機で販売。
- ・**病室のカード式TV・冷蔵庫、病棟各階洗濯室のカード式洗濯機・乾燥機、特別室A-Gのカード式FAX付電話機にも使用できます。**
- ・**退院の際には、未使用分についてはこの精算機で残金を精算してください。**
- ・**自動販売機(一般)** : 外来診療棟1階ホスピタルモールコンビニ前のほか、南棟北棟各階ラウンジに設置。



九州大学病院別府病院

メディカル・インフォメーションセンター分室

メディカル・インフォメーションセンター分室(以下、MIC分室)では現在、室長と技術職員、技術補佐員の3人で業務を担当し、診断と診療の精密化を図る目的で導入した医療情報システムと、医療情報ネットワークの維持管理を行っています。この医療情報システムにより、各部門の連携がスムーズに行えるよう支援することがMIC分室のおもな業務です。

室内では、MIC分室サーバ(22台)パソコン端末(205台)で、医療情報ネットワークシステムが構成され、2013年1月から別府病院に電子カルテが導入されたことにより、診療情報の一元化や、迅速な情報共有が可能となりました。

また、MIC分室運営委員会ではシステムのトラブル防止や問題点を討議し、各部門と連携を行い、医療情報システムの安全な運用を心がけています。

さらに、新規採用者には医療情報とセキュリティ講習、医療情報システムの操作講習を行った後にパスワードを発行して、医療情報システムの利用を図っています。



MIC分室サーバ管理業務

■連載 メディカルスタッフを紹介します [25]

このコーナーでは本院の医療スタッフの役割を順次、紹介します

臨床工学技士 (ME センター)

「臨床工学技士」をご存じですか? 臨床工学技士とは、人工心肺装置や人工呼吸器、また血液浄化装置などの生命維持管理装置の操作や保守点検を行う職種です。近年では、植込型補助人工心臓を装着する患者さんとの関わりが増えています。

私たちは、その業務内容から「いのちを支えるエンジニア」と呼ばれ、医療機器の管理部門であるMEセンターを中心として、手術室や集中治療室のほか、血液透析室や内視鏡室、輸血センターなど、さまざまな領域で24時間体制で業務を行っています。

また、院内で治療に用いられる装置、例えば輸液ポンプやシリンジポンプ、生体情報モニターなどのさまざまな医療機器の中央管理を行い、円滑で効率的な運用を行っています。

私たちは、医療機器を介して患者さんの治療に関わることがほとんどですが、これからは患者さんから信頼され、また、安全・安心な医療が提供できるよう、日々研さんに動んでいきたいと考えています。



手術室の人工心肺装置の前で

病院災害訓練を実施しました

12月14日に、平成29年度の九州大学病院災害訓練を行いました。この訓練は病院全体をあげて行う大規模な災害訓練で、2009年9月に外来診療棟の移転を機に実施して以来今回で10回目となります。とくに今回は、警固断層での最大震度6強という大規模地震を想定し、①病院被災に対するアクションカードをつかった災害時対応訓練、②災害拠点病院としての多数傷病者受け入れの対応訓練を中心に行いました。

災害対応訓練では、院長を対策本部長とする災害対策本部と、病棟災害対応の情報共有と対応行動訓練を行いました。また、多数傷病者受け入れ対応訓練においては、実際に傷病者役としてボランティアの方に参加いただき、周辺地域の被災者、搬送されてくる重症の多数傷病者対応について訓練を行いました。

毎年行っている災害訓練ですが、年一回訓練を行うことで、大規模災害でも病院機能を維持し、地域の災害医療において九州大学病院が貢献できるようになるものと考えています。

また、訓練時には外来を中心に大きなスペースを使わせていただいておりますが、今後ともご協力いただけますよう、お願い申し上げます。

